

東京都地方独立行政法人評価委員会
平成30年度第3回試験研究分科会

平成30年8月2日（木） 14:31～15:40

都庁第一本庁舎北塔42階 特別会議室C

平成30年8月2日

午後2時31分 開会

【牧野技術調整担当課長】 それでは、定刻となりましたので、第3回試験研究分科会を始めさせていただきたいと思えます。

林委員につきましては、出席の予定なんですけれども、ちょっと電車の事故の関係でおくれているものと思えますが、人数いらっしゃいますので、このまま進めたいと思えます。また、波多野委員におかれましては、事前に欠席とのご連絡をいただいておりますので、きょうは欠席となります。

それでは、本日、お忙しい中ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。委員の皆様には6月の第1回分科会以降、短い時間の中で、分科会の出席や評価案作成などにご尽力をいただきまして、改めて感謝申し上げます。本日は、前回にもご検討いただきました「平成29年度の都産技研業務評価」（案）について、委員の意見をお諮りします。それと、報告事項として「平成29年度の都産技研の財務諸表及び剰余金の概要及び処分について」、報告させていただきます。委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴できればと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日、商工部長の坂本のほうがちょっと業務の都合上、欠席とさせていただきます。申しわけありません。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、第3回試験研究分科会を始めさせていただきます。青山分科会長、よろしくお願いいたします。

【青山分科会長】 それでは、ただいまから、東京都地方独立行政法人評価委員会平成29年度第3回試験研究分科会を開催いたします。

ちょっと声が空調で喉が乾燥でやられまして、お聞き苦しいんですけど、ご了解をお願いいたします。

まず、議事に入ります前に、本分科会は公開となっております、議事録につきましてもホームページにて公開となりますことをご了承をお願いいたします。

それでは、早速議事を進めてまいります。お手元に配付してあります式次第をごらんください。本日の議事ですが、審議事項が1件、報告事項が1件を予定しております。

初めに、事務局から配付資料の説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 それでは、お手元にお配りしました資料の確認をお願いいたします。

資料1といたしまして、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター評価一覧、A3縦判のものです。この資料につきましては、第2回のときに決めていただきました評定をまとめたものでございます。続いて、資料2、平成29年度都産技研業務実績評価項目別評価（案）、A3横のものです。続いて、資料3、平成29年度都産技研業務実績評価全体評価（案）、A4縦。これらの資料につきましては、さきの第2回分科会でいただいた意見をもとに、事務局で修正した評価案でございます。

それと資料4といたしまして、平成29年度都産技研の業務実績に係る評価委員会の意見について（案）、A4縦のものとなります。この資料は、ちょっとことしから出てきたものでございまして、ことし4月の地方独法の改正に伴って、評価主体が知事が変わることになりましたので、ここで評価案を決定という位置づけじゃなくて、その評価案に対して、委員の皆様から意見を添付するという形で、知事が評価するに当たって参考とするという扱いになりましたので、ちょっとそこが昨年度と変わっておりますので、また改めて資料のほうは説明させていただきます。

それと資料5、平成29年度都産技研の財務諸表について（概要）、A3横でございます。それと資料6、平成29年度都産技研の剰余金の概要及び処分案について、A3横のものです。この二つの資料については、財務諸表の説明のところで見ていただく資料となっております。

資料7、平成30年度試験研究分科会開催スケジュールの予定ということで、A4縦のものです。

それと参考資料として、東京都地方独立行政法人評価委員会運営要綱をお配りしております。評価の決定の際に参考としてごらんいただければと思っております。

それと委員手持ち資料といたしまして、平成29年度都産技研業務実績評価（案）新旧対照表と。この資料につきましては、第2回のときの評価案と今回修正した案の対照表ということになっておりますので、評価案の検討のときに資料2と3とご一緒にごらんいただければと思っております。

資料について、ご不足等ございませんでしょうか。

事務局からは以上となります。

【青山分科会長】 ありがとうございました。

林委員はお暑いところ、ありがとうございます。何か交通機関のトラブルもあったようで、今、配付資料の説明をしていただいたところでございます。

それでは審議事項、都産技研平成29年度業務実績評価（案）について、審議を行います。

前回の分科会で検討しました内容を事務局が産技研に事実確認を行った上、再度評価（案）を修正しております。

事務局から説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 修正した評価案について、これから説明をさせていただきます。

流れとしては、まず、資料2の項目別評価（案）のところで、一応、1ページずつ区切って確認のほうをさせていただければなど。あわせて、委員手持ち資料のほうに新旧比較表もございますので、それと一緒にごらんいただければと思っております。

じゃあ、ちょっと1ページのところを先にご説明させていただきます。

基盤研究のところなんですけども、項目1の基盤研究なんですけども、2ポツ目のところの赤字で書いてあるところ、前は、「事業化・製品化」となっていたんですけども、その部分を入れかえたと。今まで「製品化・事業化」という言い方をしていたので、入れかえています。委員手持ち資料だと2ページの下のところになります。

それと、項目別評価2の共同研究ですが、これは各事業名をかぎ括弧で区切ったというところと、あと、3ポツ目のところのちょっと「てにをは」を流したところで、読みやすくしたところを直しております。

続いて、3番目の外部資金導入研究ですけども、これは1ポツ目のところは、前は前年度比10件増の55件としたんですけども、ここちょっと資料を確認したところ、実際は1件しか増加していなかったと。昨年度と今年度の件数は間違いはなかったんですけども、その差が10件となっていたところが実は間違っていたということで、1件増ということなので、前年度と同程度の件数を着実に実施したという形に変更させていただいております。

1ページ目につきましては、以上でございます。

【青山分科会長】 進め方ですが、まず、これは資料2の項目別評価について区切って、もう一回確認・検討するというところでよろしいですね。

【牧野技術調整担当課長】 はい。

【青山分科会長】 それで、今、資料2の1枚目、1から3まででしょうか。

【牧野技術調整担当課長】 4までですけど、4は修正がなかったの。

【青山分科会長】 4は特に修正がなかったということですね。までご説明いただきましたけれども、何かこの事務局で修正案をつくって、特に資料2には赤い文字で修正部分を明記してございますが、何かご意見はございますでしょうか。

よろしいですか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、ありがとうございました。

それでは、続きまして、項目の5から8までお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目5はございません。

項目6の技術相談でございます。3ポツ目のところを以前は支援カードのデータベース化を図って活用するという流れでしたけれども、実際、データベースのほうは既にされているということだったので、ちょっと文言を整理いたしまして、まず最初に、「技術相談には、中小企業のニーズや技術的課題が含まれており、様々な事業に結び付けていくことが重要である。データベース化した「支援事例カード」の有効活用を図り、ニーズの把握に努めることを期待する」という形で、ちょっと文言のほうを整理させていただいております。

それと、項目7については、変更はございません。

項目8、機器利用サービスのところですが、まずは、城東支所のところの「デザインスタジオ」と「ものづくりスタジオ」については、かぎ括弧で区切りをつけたところと、3ポツ目のところを、前回は機器を整備して、新製品開発のための機器利用サービスの提供を期待するということでしたけれども、委員の皆様の意見がありまして、それを反映して、「機器を整備するとともに利便性向上の仕組みを検討する等、質の高い機器利用サービスの提供を期待する」という形に変えております。

一応、8までは以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

林委員、前回ご欠席でしたけれども、あらかじめいただいたコメントをここで披露いただいて、事務局のほうから、ここへ含めるようにもしておりますので、また本日、ご確認

いただければと思います。

いかがでしょうか。特にございませんか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、続きまして、9から12までお願いします。

【牧野技術調整担当課長】 項目9の3Dものづくりセクターでございます。これは文言整理をしまして、3ポツ目で「多数の独自性の高い」、その下で「セラミックAM技術における基礎技術を確立」ということで、文言整理でございます。

項目10のところでございます。3ポツ目の最後のところですけども、これも文言整理しまして、「安全・安心」等の観点から」というところを「安全・安心」等の分野で」という形で、一応整理させていただいております。

それと、項目11はございません。

項目12、オーダーメイド開発支援、これの2番目のところで、より適切な表現に修正したということで、途中からになりますけども、「アウトカム調査の中のオーダーメイド開発支援の目的達成度の項目においても評価されている」ことで、アウトカム調査の中の項目で評価されていることで、より詳細というか具体的な名称で表現させていただきました。

それと、3ポツ目のところなんですけども、これは委員の皆様の意見を反映しまして、調査の結果、非常に達成度が高い、やや高いという方が結構かなりの割合を占めているということもあった中で、やはり「調査の内容を分析して、その結果を事業の改善に生かすことで、利用者の目的達成度が更に高まるような取組を期待する」という形で、加えているところがございます。

説明は以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

そこまでいかがでしょうか。

何か前回の議論がコメントがうまく反映されていないとか、ちょっと違った内容になっているとかありましたら、ご指摘いただきたいと思います。

よろしいですか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、続きまして、13から16をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目13については、修正はございません。

項目14、実証試験セクターのところでございますけども、2ポツ目のところは、誤記を修正したということで、「専用」となっていたんですが、これは「専任」ということで修正させていただきます。3番目のところは、皆様の意見を踏まえて、実証試験セクターの実績は過去最高なんだけど、件数だけ伸びたというだけじゃなくて、そういう「増加要因を分析して、更なるサービスの向上に努めることを期待する」という形を加えさせていただきます。

それで、項目15につきましては、これは文言の整理で、「貢献できるため」のところを「貢献できるよう、知的財産活用の更なる展開を期待する」という形に変えております。

それで、項目16、技術審査につきましては、より適切な表現に変えたということで、「受託収益の金額は前年度を下回るものの、技術審査件数は前年度を上回る実績をあげており、評価できる」という形で、整理させていただきました。

16までは以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、続きまして、17から20までお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目17、18は、修正はございません。

項目19のところなんですけれども、前回は1機関となっていたところを具体的な大学の名前を入れさせていただいたということと、2番目のところも1区が追加されていたところを具体的な区名を入れさせていただいたということで、修正をさせていただきます。

項目20は、変更ございません。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

何かご質問ございますか。ご意見。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、21から24までお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目21、情報発信・情報提供でございます。ここは3ポツ目のところなんですけれども、ここは文言整理しまして、前回は「コストを削減した」と書いていたんですけども、「12百万円削減した」という形に変えております。最後の

ポツのところを皆様の意見を反映いたしまして、「イベント内容と経費削減の内訳を分析し、効果的なイベントになるよう今後の事業運営に反映することを期待する」ということで、修正しております。

項目22ですけれども、業務運営の改善等に係るところですけれども、2ポツ目のところが研究時間の割合が「改善」となっていたんですけれども、そこを「増加」という形で表現を変えさせていただいております。

それと23について、これはより適切な表現ということで、「積立金」のところは「目的積立金」ということで、目的を加えております。それと2ポツ目のところも、これもより適切な表現ということで、より具体的に「平成28年度に引き続き設備機器の校正・保守」という形で、修正しております。

それと最後になりますけれども、項目24の危機管理関係なんですが、「情報管理研修」と前回なっていたんですけれども、これはより適切な表現ということで、「情報セキュリティ研修」と。それと最後の項なんですけれども、「より早急な対応の望む」という形にしていたんですけれど、これは「より早急な対応に期待する」という形で、文言の整理をさせていただいております。

以上になります。

【青山分科会長】 21から24までいかがでしょうか。

どうぞ、北村委員、お願いします。

【北村委員】 21の4ポツをつけ加えられていただいたのは、これは必要なことだと思うんですけれども、ただ、これは何というんですかね、事業費を削減することが目的だったのか、立候補のやり方を変えるというのが目的だったのか、それによって、内容が全然変わるんだろうと思うんですよね。いわゆる内製化、今まで外部業者に委託していたのを内部的な形でやりましたと。したがって、経費が削減になりましたということなんでしょうけれども、経費というか事業費削減になった。だから、その目的をどこが主でもって、そういうことをしたのかというのがはっきりしていないという気がするんですよね。

ちょっと先走って、剰余金の処分のところを見たら、これが経営努力の一つになっているんですね。経営努力なのということなんです。なぜ、そういう今まで業者に頼んでいたのを内製化したのか。同じようなものをそうしたんなら、これは事業費削減のためにやったんだということになると思うんですけれども、やっている内容が全く違うわけですよね。1,000人が集まるような催しと100人しか集まらない催し。コンセプトが全然違う

んで、そのこのところはどういう目的のもとに、そういうことをしたのかというところをもっと明確にしろというのかな、そういうのが、これでもある程度のことは入っているんだろうと思うんですけども、それがそのまま経営努力によってということと結びつけて考えたときに、何かはっきりしてよというような気がしますんで、その辺が何かあわせなかなと思いました。

【牧野技術調整担当課長】 目的については、具体的にどっちということまで確認したいんですけども、あと、両方あったのかなというふうにはちょっと認識してはまして、やはり施設公開のほうを充実させるというところで、そのプログラムの見直しというのがあるって、結果的に事前登録とか、そういうところにかかわっていたんで、事業をよくしていこうという面が一つあったのかなと思うんですけども。あわせて、内製化できるところは内製化しようというところも見受けられるというふうに思っておりますので、これは、また後での話なんですけど、全部経営努力かということまでちょっと分け方までできないというのが正直現状なので、一応、削減したことについては、調整する中で認めていったという経緯となっておりますので、そういう経過になっております。

ちょっと答えになっているかわからないですが。

【青山分科会長】 今の北村委員のご意見をここに、項目21に反映するとすると、事業の目的遂行に対してということですよ。イベントの内容と経費削減の内容を分析し、さらに、要は目的に対して効果的なイベントになるよう、今後の事業運営に反映することを期待する。ちょっと何か文章がまだ余りうまくないんですけど、事業内目的に対してどうかという文言をどこかに挟めばいいんじゃないでしょうかね。

【北村委員】 そうですね。分析する立脚点はどこなんだと。何に基づいて分割というのを前のほうに入れていただければいいんだろうと思うんですよ。

【牧野技術調整担当課長】 それでは、前のところに、事業の目的に対してか、照らしてとか、ちょっとそういう形で文言を……

【青山分科会長】 対してというか事業目的に照らしてという言葉を使うのがいいのかもしれないですね、確かに。

【牧野技術調整担当課長】 じゃあ、ちょっとそこを修正のほうをさせていただきたいと思っております。

【青山分科会長】 よろしいでしょうかね。

【牧野技術調整担当課長】 はい。

【青山分科会長】　　じゃあ、そこは事業目的に照らして、イベント内容と経費削減の内容を分析し、効果的な、あと、以下同じということでもよろしいでしょうか、文章としては。

　　じゃあ、これはもうこの場でそういうふう直すということで。

【牧野技術調整担当課長】　　わかりました。修正をさせていただきます。

【青山分科会長】　　ありがとうございます。

ほかに何か。よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

【青山分科会長】　　それでは、この項目別のところは非常にとんとん拍子に進みましたが、続きまして、資料3の全体評価について、事務局からご説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】　　資料3の全体評価のところでございます。委員手持ち資料のほうですと、1ページ目のところからになります。

　　まず、総評の最初のところは前回の分科会で決定した評定ということで、「全体が優れた進捗状況」という形で加えさせていただいております。

　　それと一番最初のポツのところなんですけれども、「安全・安心」の研究開発」となっていたんですけど、そこもより適切な表現ということで、「安全・安心に関する」という形で文言を整理しております。

　　それと一つ項目として、事項として、今回からちょっと見せ方というか、わかりやすくしようという法改正に伴ってという部分があって、評価するところと改善もしくは充実するところという形で、ちょっと項目を分けてくれという話がありましたので、そこをちょっと加えさせておきましたので、高く評価すべき事項というのを加えております。

　　2ページ目のところに行きまして、上から二つ目のところですが、複合素材のところなんですけれども、これは前回の委員の皆さんの意見を加えて、よりわかりやすくということで、「同セクターは、多摩テクノプラザに開設して2年目」という形で加えております。

　　その下、先ほど申したように、次は、改善とか充実を求める事項ということで整理しまして、一番最後のところ、ここはいろいろ議論があったところかと思うんですけども、皆さんの意見を集約して修正したところがございます。ちょっと読み上げますと、「都産技研の支援事例について、追跡調査の充実を図る等、製品化の費用対効果や事業化の経済効果等をより一層把握するよう努めてほしい。また、都産技研の貢献度や成果を効果的に

情報発信することにより、都産技研のプレゼンスが向上し、様々な支援事業が更に活性化することを期待したい」という形で、修正をしております。

一応、一旦、ここで切りたいと思います。

【青山分科会長】　そこまでいかがでしょうか。全体評価の案ですが、総評の部分ですが、いかがでしょうか。

一番、この間、たしか議論になったのは、この2ページ目の下の4行ですね。これについて、文章を立ち上げていただきましたけど。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】　それでは、続きをお願いします。

【牧野技術調整担当課長】　次は、3ページ以降の2の研究開発、技術支援等についてのところでございます。

ページ数でいいますと、修正したのは4ページからになりますね。3Dものづくりのところなんですけれども、一つは文言整理ということで、「前年」を「前年度」と変えたところと、それと、最後のところも委員の皆さんの意見を踏まえて、「今後もハードウェア、ソフトウェアの両面から3Dものづくりの技術支援を進め、更なる独自性のある高度な製品開発事例につながることを期待する」というふうに修正しております。

続いて、5ページ目ですけれども、これは先ほどの項目別のところにありましたように、具体的な協定を結んだ機関を東京農工大という形で変えております。

それと、(6)、6ページ目の下になります。ここは、より適切な表現ということで、文言整理をいたしまして、一番最後のところですが、「プロジェクト推進部を発足し、新たに「中小企業のIoT化支援」云々を開始する等」という形で、文言を整理させていただいたと。

それと、あと最後のページは、語句の説明ということで加えさせていただいたところがございます。

説明については、以上でございます。

【青山分科会長】　内容的には、文言の訂正というのがありましたけれども、4ページ目の「ハードウェア、ソフトウェアの両面から3Dものづくりの技術支援を進め」というのを加えた。議論では、ハードの面もあるけれども、これを支えるCAD/CAMとか、そういったソフトの充実も必要で、こういったところの支援を充実させるということも必要でしょうという議論がありまして、それを文章としてここに挿入してもらったというこ

とですが、いかがでしょうか。

あと、文言の説明ですね。最終7ページ目にありますが、こちらについて、お目通しを
いただいて、適切であるかちょっとご判断いただきたいと思います。少し時間をとりたい
と思います。

いかがでしょうか。

CFRPって、鉄よりかたいというのがどこか書いてあったんですかね。どこかから引
っ張ってきたんだと思うんですが。

【牧野技術調整担当課長】 そうなんです。これは、一応……

【青山分科会長】 これは、多分、場所によってはかたいでしょうけど。

【牧野技術調整担当課長】 一応、技術用、ネット上なんですけれども。

【青山分科会長】 出ていけばいいんだけど。

【牧野技術調整担当課長】 業界によってちょっと、業界というか、これを使う業界が
ちょっと書き方が変わってたりするので、より一般的なところを拾ったんですけども、
必ずしも……

【青山分科会長】 鉄といっても、いろんな鉄があるんだけど。樹脂のところはそんな
かたくないと思うんだけどね。鉄よりかたいて、ちょっと私として、個人的には違和感
なんだけど。どこかから、もとがあるならいいと思いますけどね。一般的にはそういう認
識なのだろうね。

よろしいですか。語句の説明、それから内容のところについても、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、特にコメントがないようですので、この全体評価につい
ては、事務局のほうで前回の議論に基づいて、加筆・修正をいただいたこの資料3の案で
了解ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、資料4の業務実績に係る評価委員会の意見について、事務局か
ら説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 資料4につきましては、冒頭の資料説明のところでもお話
しましたんですけども、ちょっと今回、新たに昨年までなかった位置づけの資料となってお
ります。法改正に伴って、繰り返しになるんですけども、知事が評価主体になったという

ことで、今、ご議論いただいた全体評価とか項目評価については、位置づけとしては、これから内部で諮っていったり確定していくものなので、それに対して、評価の参考にするために評価委員会の意見をつけるということで、この資料4というのを今回新たにつけ加えているものです。ちょっと中身を読み上げますので、本来であればというか、皆さんから各項目についても意見をいただいているんですけども、特に評価に当たって重きを置くというか、ところを主に意見を集約した形でまとめておりますので、ご意見をこういうことはどうだとか、こういうことも加えてほしいとかあれば、後でいただければと思います。それでは、ちょっと読み上げさせていただきます。

平成29年度における地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターの業務の状況は、「業務全体が優れた進捗状況」とであると認められる。評価の決定に際しては、次の点について留意されたいと。

1番として、製品化事例について。先端材料開発セクターや複合素材セクターなどの様々な支援事業で、実用的な製品化事例や独自性の高い事例が多く認められ、製品開発支援の成果として評価できる。

2番目、3Dものづくりセクターについてということで、3Dものづくり技術の進展によって、ものづくりの概念が大きく進化している。都産技研では、新たにセラミックAM技術支援に向けた基礎技術の確立に取り組むなど、今後のニーズの増加を予見した対応が認められ、高く評価すべきである。

3番目がロボット産業活性化事業についてでございます。案内ロボットの実証実験が進む等、実用化へ向けた取組が多く認められる。サービスロボットを社会実装するには様々な課題があるが、今後、社会ニーズに合った特徴あるロボットやIoTとの連携による更なる機能を提供するロボットなどの開発を支援してほしい。

それと4番目、依頼試験・機器利用サービスについてでございます。実証試験セクターや複合素材開発セクターでは、依頼試験・機器利用の合計実績が前年度よりも大きく増加している。なお、依頼試験等については単なる利用件数の増加を図るだけでなく、増加した要因や利用企業の属性を分析する等、今後の事業運営に活用することが重要である。

また、第三期中期目標及び中期計画の達成に向けては、法人が次の取組を推進することを期待する。「環境・エネルギー」、「安全・安心」などの技術分野で研究開発を推進し、研究成果が製品化・事業化につながることを期待する。また、平成29年度から開始した「中小企業のIoT化支援事業」では、IoTの活用が様々な分野に波及することから、

今後、更に注力してほしい。

最後になりますけれども、中小企業の更なる発展のため、都産技研は将来のニーズを先取りし、必要な技術開発や人材育成を先行して進め、中小企業をリードしてほしいという形で、皆様の意見をちょっと抜粋して集約したような形で整理させていただきました。

説明は以上になります。

【青山分科会長】 ありがとうございました。

要するに、この資料4というのが知事にこちらの評価の説明をするときの一つの資料になるということですね。

【牧野技術調整担当課長】 そうですね。先ほどのものとこれを添付して、知事に諮るような形で。

【青山分科会長】 これまでのこの委員会での意見等も含めて、ここに抜粋をしていただいていますが、ごらんいただいて、何か足りないこととか、そういったようなことがありましたら、ご指摘いただければと思いますがいかがでしょうか。

あるいは今、この挙げて抜粋してもらった項目について、何か修正等ありましたら、ご意見ありましたらお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 支援化事業については、先端材料というのが例の石灰石の紙にかわるペーパーを意識しているのと、複合素材は染小紋の型紙のところをちょっと意識して、あえて抜き出したというところがございます。

【青山分科会長】 それを具体的に書き込まないほうがいいという考えですか、そういうプラスチックにかわるような。

【牧野技術調整担当課長】 知事に上げるときに、この資料を実際のものを持っていかどうかわからないんですけれども、その説明資料と一緒につけるので。これだけでなく、3Dとかもいろんなとか、あるいは、スプレー缶とかも結構、評価いただいていたんで、そういうのを含めて、さまざまな事業でトータルとして製品化が進んでいるという意見かなということを書かせていただいております。

【青山分科会長】 ぜひ、これは私の意見ですけど、文章は私はこれでいいかと思うんですけど、知事に説明されるときに、そういう具体的なサンプルなど積極的に持ち込んで説明をしていただくのがいいんじゃないかと思いますけどもね。

何かご意見ございますか。

じゃあ、藤竿委員、お願いします。

【藤竿委員】 大筋これでいいと思うんですが、ロボット活性化のところで、IoTとの連携とあるんですけども、業務実績評価ではAIも入っているので、入るものなら、AIIoTとの連携とかAIの活用といったような言葉を一つ入れたほうがいいかなと思います。

【牧野技術調整担当課長】 特に問題ないかと思います。

【青山分科会長】 じゃあ、そこは追記するということで。

ほかに何か。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、資料4については、今のご意見をいただきましたので、反映していただきたいと思います。

ほかに全体を通して、本日のこれまでの項目別、それから全体評価、今の資料4も含めてですが、全体を通して何かご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、ご意見がないようですので、平成29年度業務実績評価に係る評価委員会の意見につきましては、このとおり決定いたします。

なお、評価委員会の意見につきましては、先ほどご説明がありましたけれども、お手元の参考資料の評価委員会運営要綱の第五条の関係別表に基づいて、本分科会の議決をもって知事が評価する際の意見となりますということで、ご了解いただきたいと思います。

それでは、続きまして、報告事項になりますが、平成29事業年度の財務諸表及び利益処分に対する報告について、事務局からご説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 それでは、財務諸表について説明するんですけども、ちょっとこれも昨年までは、財務諸表と利益処分のところは、昨年の法案の第34の第3項で、知事による財務諸表の承認をする際に、評価委員会の意見を聴取して意見を述べるという形になっていたんですが、法改正に伴って、評価委員会の所掌事務ではなくなったというところなので、運用の一環として、報告事項として説明をさせていただくものという一応位置づけが変わっております。

それでは、ちょっと資料5のほうから説明いたします。

まず、貸借対照表のところ、資料5の左側ですけども、項番の(2)の固定資産についてです。平成29年度の固定資産は、本部の建物や工具・器具、備品などの減価償却が19億円行われた結果、固定資産は28年度に比べて12億円減少しております。一方、流

動資産の（７）の現金及び預金が９億円増加しているというのは、流動負債であります運営費交付金の債務などが９億円増加したということになっています。運営費交付金の債務といたしますのは、ロボットとかIoTとか、特定運営費交付金をつけているんですけども、その未執行分があるということです。それを平成２９年に使われなかった分、使わなかった分を下の項番１１の流動負債勘定に計上しているということになっております。

続いて、負債の項目です。固定負債、項番で言うと（１０）なのですが、固定負債の資産見返負債が４８億円で、平成２８年度に比べて４億円減少しております。資産見返負債勘定といたしますのは、運営費交付金などで固定資産などを取得したときの財源科目となっております。平成２９年度は、平成２８年度に比べて、固定資産の取得が少なく、資産見返負債の取り崩し金額が少なかったということから、４億円減少したものです。

一方、流動負債のほうは、（１１）ですが、先ほど説明しました運営費交付金債務が９億円増加することなどによりまして７億円、前年度と比べてふえているということになっています。

これらの結果として、２９年度の負債の合計額は７１億円で、前年度比３億円増となっております。

最後の純資産項目のところですけども、平成２９年度の純資産の合計は２６０億円、２８年と比べて５億円の減少と。これは、損益外減価償却を７億円実施したため、資産剰余金が７億円減少したことが主な要因ということになっております。

（１７）の目的積立金が２億円あるんですけども、この額は昨年度の経営努力認定額ということで、都が承認したものをここに載せております。それと、あと、当期末の利益処分利益について、これは２億円ですけども、これはこの後、資料６のところで説明をいたします。

続いて、損益計算書になります。右側となります。平成２９年度の経常費用は７６億円ということで、前年度比６億円減となっております。一方、経常収益については７８億円で、前年度比６億円減少となります。その結果として、平成２９年の経常利益当期利益は、平成２８年と同額の２億円ということになっております。経常費用の主な減少した要因なんですけども、業務費の中に、平成２８年度は旧産業研究所があった西が丘にPCBがずっと廃棄しないままあったんですけども、その処理費用が２８年に計上してあったんですけども、それがなくなったということで、２９年度はその分減っているということです。それと、あと、減価償却が前年度比２億円減少したということで、経常費用の合計が前年度

と比べて6億円減少しているということになります。

経常収益については、(9)のところですが、運営費交付金収益が2億円減少したということと、(10)の自己収入が2億円減少したと。さらに、(11)の資産見返勘定戻入が3億円減少しましたということで、経常収益の合計は、前年度と比べて6億円減という内訳になっております。

29年度経常利益については、プラマイゼロという形で、経常利益、当期利益等も28年度と同額の2億円ということでございます。

続いて、2枚目になります。

キャッシュ・フロー計算書なんですけども、(2)の業務活動によるキャッシュ・フローは18億円ということで、前年度より15億円の増加ということです。これにつきましては、(9)の設立団体納付金の支払額が28年度は13億円ということで、これは第2期が終わったときに、都に返還したものが28年度あったんですけども、それがなくなったということが大きなところなんです。設立団体納付金は、5年ごとの期限にあわせて、都より交付された額の剰余金を繰り越せないものと、また、最後の年に審議する、協議するんですけども、そこで繰り越しが認められなかったものということで、載せるものです。

それと、(10)の投資活動によるキャッシュ・フローですけども、これは有形固定資産の取得などがございまして、マイナス10億円と。業務活動によるキャッシュ・フローと投資活動のキャッシュ・フローを合計した結果、29年度は8億円の資金が増加して、期末の資金残高が25億円ということになっております。

最後なんですけども、行政サービス実施コスト計算書、右側です。この行政サービス実施計算書というのは、独法制度、会計独特のものなんですけども、地方独立行政法人の業務運営に関して、住民が負担する金額情報を表示したというものになります。法人の運営状況をあらわします損益計算書の損益と住民側が負担する金額と必ずしも一致しないことから、損益計算書だけでなく、この行政サービス実施コスト計算書を作成することによって、納税者である住民の行政サービスに対する評価・判断に資することを目的としているものでございます。

29年度については、項番(2)番の損益計算書上の費用から項番(5)の自己収入等を差し引き、項番(10)の損益外減価償却相当額から項番(13)の機会費用を足すことで、損益計算書に反映されないものを含め、法人運営の業務運営にかかった費用などを示しているとなります。

29年度の行政サービス実施コストは、一番下なんですけど、77億円で前年度比5億円減と。この要因といたしましては、損益計算書の費用が6億円減少したというものになっております。

ちょっと長くなりましたが、資料5については以上です。

続いて、資料6です。剰余金の概要と利益処分案についてでございます。

資料の左側をごらんいただきますと、先ほどの損益計算書の説明のところに触れました当期総利益の総額2億1,400万円の説明ということになります。法人が得ました収益のうち、法人からの説明に基づいて、設立団体の長、知事が経営努力ということで認定すると、法人はその利益を目的積立金として計上することができまして、中期契約に定めた使途の範囲で使うことができるというもので、囲みで一番上のところなんですけども、囲みのところなんですけども、経営努力というところを生じたと認められるものと、計画数に沿って剰余金を使途に充てようとするものについて、承認していくという考え方でございます。

都産技研という剰余金の使途という、具体的に何かというと、右側の米印になるんですけども、産技研におきましては、「中小企業支援の充実とか、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善」に充てるということになっております。

経営努力認定の主な考え方ということで、下の囲みになるんですけども、これは総務省の独立行政法人の経営努力認定についてを準じたような形になっております。法人が新規性・自主性のある活動によって、収入の増加や費用の節減を行ったものに対して認めていくという基本的な考えでございます。

29年度につきましては、剰余金が2億1,400万円ということになりまして、その内訳について、法人から説明を受けて、内容を精査した上で、経営努力と認定する額は、一番右の利益処分（案）のところなんですけども、7,600万円ということになります。内訳なんですけども、歳入増につきまして、真ん中の囲みですけれども、歳入増について、機器利用の実績額ということで、29年度と28年度の実績の差額600万円分を認定します。

それと、資産運用に財務利益の200万円とJKA補助金獲得による収益4,900万円ということで、JKAというのは競輪とかオートの協会から出る補助金ということです。

それと、歳出減については、先ほど項目別評価のところでもちょっとご意見が出ました、都産技研が主催するイベントの業務委託費等の削減分の1,200万円を認定することと

しております。それと、都産技研の本部と東京レポート駅の間を運転をする送迎バスの契約内容を見直して、その削減分700万円を認めることといたしております。

これらの歳入と歳出減のところを今回は認定という形です。認定外の主なものとしては、一応、国からの補助金は認めないという形になっておりますので、それや契約差金など、いろいろもろもろが今、1億3,800万円あるということになりました。

説明のほうがちよっと長くなりましたけど、以上となります。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

資料5と6ですね。ご説明いただきましたけれども、何かご質問、ご意見ございますか。

【林委員】 すみません、資料でない質問で恐縮ですけど、行政サービス実施コスト計算書というところを初めて見るものですから、どういう意味合いで、どういうふうになっていることを説明しているのか、ちよっともう一回説明していただけますか。

【事務局（福留）】 地方独立行政法人でございますので、もともとの財源といえますか、地方独立行政法人ということでございますので、お金の出どころはもともと税金というところでございますので、普通の損益計算書に比べまして、それをベースに考えはするんですけども、どれほど費用を使っていて効果が出ているかというものを一般的にあらわすような指標になっておりまして、こういった表があるということでございます。

【青山分科会長】 なかなか難しい項目で、私も余りはっきりとは明確にはわからないところもあるんですけど。

よろしいでしょうか。ほかに何かご質問ございますか。

これは剰余金の内訳の利益処分（案）という、目的積立金にするというのは、これは前回も同じですよ。こういう処理していたんですけど、前年度。

【牧野技術調整担当課長】 そうですね。これは毎年、各年度の決算を受けてから、法人のほうでこれだけ経営努力したので認めてくださいという申請がありまして、それをいろいろヒアリング等して、あと、うちの中でも財政当局とちよっと協議して、次年度に繰り越せる、積み立てて、さっき言いました中小企業への支援の充実とか、使うものについては承認するというような毎年やっているプロセスでございます。ちよっとだんだんその辺の査定が厳しくなってきたりしまして、去年はこれよりももう少し1億円ぐらいあったんですけど、今回はかなり厳しくなっております。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。ほかに何かご意見、ご質問ございますか。

（「なし」の声あり）

【青山分科会長】 ほかにご質問ないようでしたら、それでは、この議題のその他です、その他の（１）というのが今、ご説明いただいた件ですが、このことの報告について、終了させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

【青山分科会長】 ありがとうございます。

以上で、本日の議題は全て終了いたしました。大分予定のスケジュールよりは早く進行いたしました、全体を通して、ご質問あるいはご意見ございませんでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

【青山分科会長】 それでは、最後に、事務局から連絡事項について、お願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 いろいろご審議いただき、ありがとうございます。

ちょっとまだ評価のところにつきましては、本当に1カ月の短い期間に委員の皆様、意見等をいろいろいただきまして、まことにありがとうございます。おかげさまで円滑に分科会のほうを進めさせていただきまして、これから都の中でまた知事のほうに報告のほうが行くということになります。皆さん、ありがとうございます。

それで、またちょっと位置づけが変わったということで、若干、中身は変わらないと思うんですけども、ちょっと体裁とかを変えて、知事に報告するというような形になると、また、ちょっと実際、報告書としてまとめるときに、若干体裁が変わることがありますけども、そこは事務局あるいは都のほうでさせていただきますので、よろしく願います。

最後、スケジュールにつきまして、資料番号7番となります。一応、第3回、本日まで終了させていただいておまして、次回は一応第4回ということで、来年2月か3月ごろに法人による平成31年度の事業計画案の報告というふうなところを、今、計画をしているところなんですけれども。一応、今、事務局の中で、いろいろこれまで分科会等を産研の本部と都庁でしかやっていなかったもので、ちょっと支所も多摩とかいろいろございますので、もしちょっと日程調整とか、できればそういう見学会とかをもしかしただけであればと思います。追ってまたそれはご相談させていただきたいなと思っております。

それで、本日の決定を分科会を踏まえて、前から申していますけれども、9月下旬、開示もあります第3回の都議会の定例会のほうで報告させていただくという流れであります。

一応、今後のスケジュールについては、以上でございます。

また、改めて本日お配りした資料につきましては郵送させていただきますので、そのまま置いていかれても結構でございます。

事務局からは以上ということになります。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

4回目については、できるだけ早目に日程調整をしていただければと思います。また別の場所でやるとすれば、さらにいろいろと時間調整が必要かと思しますので、よろしく願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。スケジュールについて、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、以上をもちまして、東京都地方独立行政法人評価委員会平成29年度第3回試験研究分科会を閉会いたします。

どうもご協力ありがとうございました。

午後3時40分 閉会

——了——